

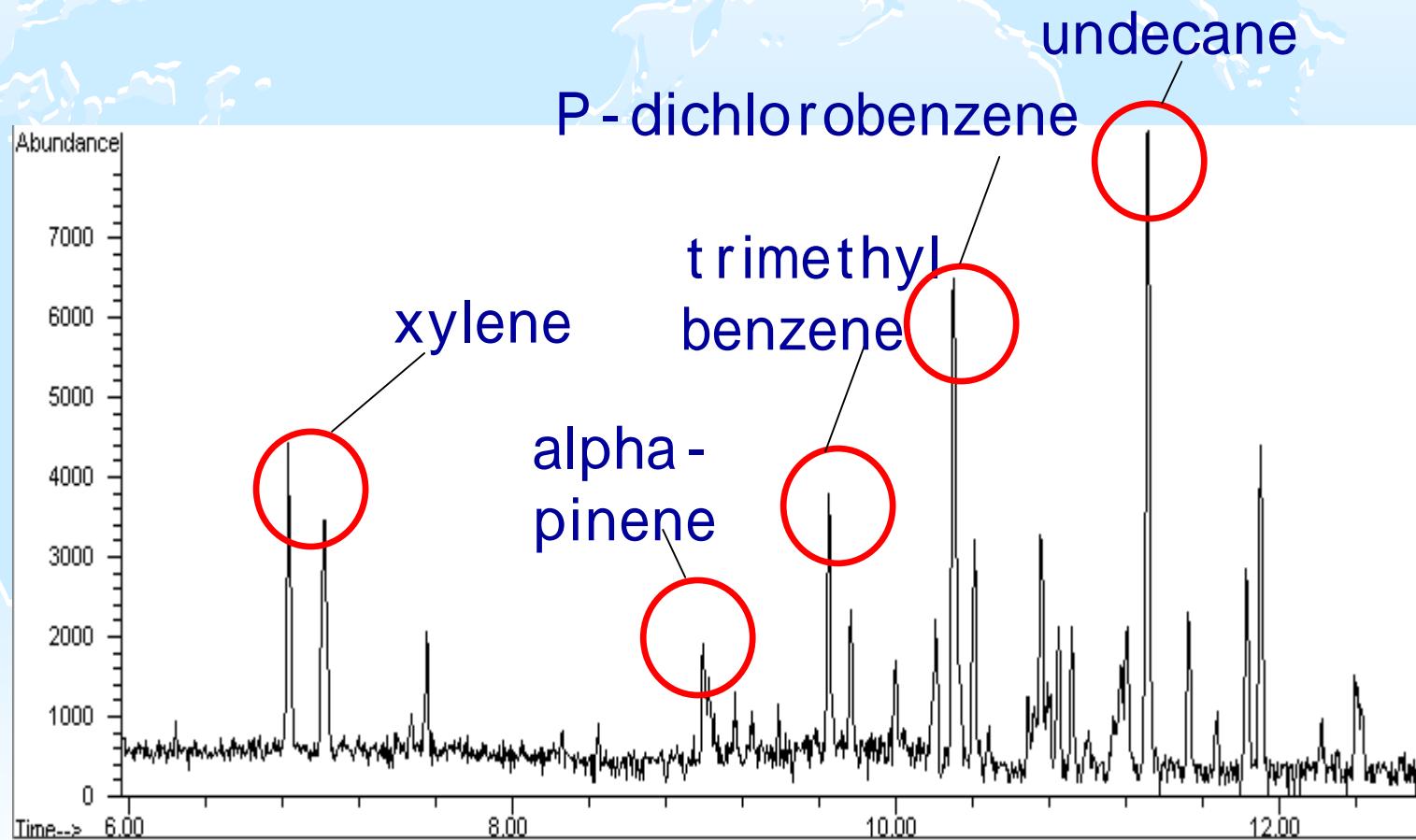


リスク評価の理念とノウハウ 対象物質の選択 ~空気汚染を例として~

東京大学大学院
新領域創成科学研究科
環境学専攻・教授
柳沢幸雄

室内空気の実測結果

(都内某オフィス)



大量の未同定物質

- どの物質をリスク評価の俎上に載せるか
 - 評価対象物質を選択するための、方法論を確立する必要がある
- 物質Aのヒト健康リスク
 - 物質Aの曝露量 × リスクファクター
- 曝露量の多い順に物質を並べる

曝露量の多い物質を知る方法

- 屋外空気汚染の場合

- 曝露量の多い物質の抽出を目的とした、大気環境観測データの解析
 - NMHCデータの活用

- 室内空気汚染の場合

- 曝露量の多い物質の抽出を目的としたデータの収集
 - 収集方法は？
 - ホルムアルデヒドなどの代替物質の多用で、物質の種類が急速に変化している

室内空気汚染データの収集法

- 曝露量の多い物質の抽出方法
 - 総揮発性有機化学物質(TVOC)を再定義し、活用する
 - 新築、リフォーム後TVOC測定を義務付け
 - カットポイント($X\mu\text{g}/\text{M}^3$)以上の場合、物質の同定と定量を濃度の高い方からTVOCのY%になるまで行う。
 - 同定・定量された物質のデータベースを構築する。
 - データベースから検出頻度が高く、濃度の高い物質を抽出する
 - 抽出された物質のリスク評価を行う。